

1. 道路交通マスタープランの見直しの目的

本市では、平成元年12月に道路交通マスタープランを策定し、その後、数次にわたる見直しを行い、これに基づき道路整備の推進を図ってきました。平成19年度の見直し（以下「既往計画」という。）以降、圏央道海老名ICの開通や海老名駅周辺における開発、自転車通行の新たな基準の発出等、市内外の道路整備を取り巻く状況が当時とは大きく異なってきています。

今回の道路交通マスタープランでは、これらの社会情勢の変化を踏まえた上で既往計画の見直しを行い、将来の幹線道路網計画を策定することを目的とします。

2. 道路交通マスタープランの役割と幹線道路の位置付け

道路交通マスタープランの役割

- ▶ 道路交通マスタープラン（以下「マスタープラン」）は、本市の将来的な道路交通のあり方を示すものであり、具現性の高い幹線道路網の構築を目指す指針として位置付けるものです。

幹線道路とは？

- ▶ 今回見直しの対象である「幹線道路」とは、市内の骨格的な道路網を形成する道路で、都市間や市内の各地域間の交通を主に担います。

意向調査を行いました

- ▶ 道路交通施策に関するアンケートを行い、757名の方から回答を頂きました。

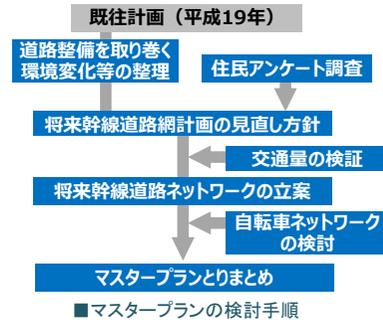
- ・ 調査時期：2017年11月～12月
- ・ 調査対象：市内在住の2,000人
- ・ 主な調査項目
目的別の行先・移動手段・移動経路、市内の道路利用上の問題点や日常的に感じること等

- ▶ 海老名駅東口の国分地区、(都)海老名駅大谷線を中心に、これに接続する道路周辺での移動が多くなっています。



マスタープランの検討手順

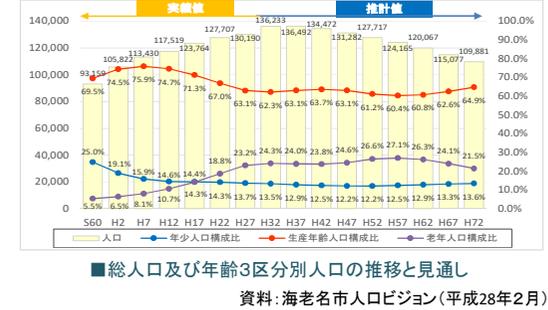
- ▶ マスタープランは、既往計画をベースに、以下の検討手順により検討・作成しています。



3. 見直しの背景～道路交通を取り巻く状況は変化しています～

人口構造が変化しています

- ▶ 人口減少や少子高齢化は全国的に進行していますが、本市においても総人口は平成35年までは増加し、13.6万人をピークに以降は減少傾向となります。
- ▶ なお高齢化率は、今後15年は概ね24%前後で推移する見込みです。



移動特性・意識が変化しています

- ▶ 近年は、海老名駅周辺で商業施設の開発が進み、購買活動や余暇活動を目的とした自動車利用が増加し、市外からの集客も見込まれます。
- ▶ 一方、若年層の“クルマ離れ”や環境意識の高まりからの自転車移動など、モダルの意識が変化しています。



保留状態の路線があります

- ▶ 財政や地域の事情などにより、既往計画策定以降も保留されたまま、これまでの10年間で変化がなく、整備時期が明確になっていない路線もあります。
- ▶ こうした路線について、社会経済情勢の変化への対応を勘案し、見直す必要があります。

広域交通への対応が必要です

- ▶ 近年、圏央道の開通、海老名南ジャンクションの供用など、広域的な交通体系が整備されつつあります。
- ▶ また、海老名駅周辺では駅西口、駅間地区を中心に大規模商業施設を中心とした開発が進展しています。
- ▶ 昼夜間人口比[※]は増加傾向にあり、市外からの来訪により賑わいの創出が図られています。
- ▶ 南部地域の交通利便性向上策について、道路ストックの活用研究を進めます。

※昼夜間人口比：夜間（常住）人口に対する昼間人口の割合

4. 将来幹線道路網計画の見直し

路線抽出の考え方

- 見直し検討路線は、未整備路線の中から、過去の検討内容を踏まえ、総合的に判断、抽出しました。

H25都市計画道路見直しで

「留保付き存続」「保留」と評価された路線

H19既往計画で

「必要性の再検証」と評価された路線

H22都市マスタープランで

市主導施工で、現在未整備の路線

H28かながわのみちづくり計画で

位置付けのない路線

抽出評価

見直し検討路線

■ 路線抽出の手順

見直しの内容

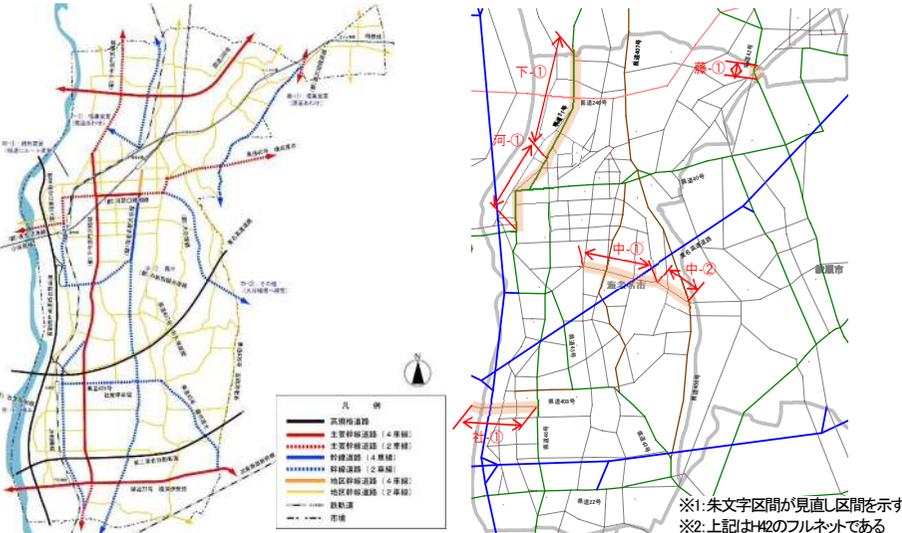
- 見直しには廃止、線形変更、幅員変更などがあります。



■ 見直しのイメージ例

見直し検討路線の検証・評価

- 見直し検討路線（5路線）について、その有無における将来交通量推計を行い、重要性・必要性を定量的に評価し、検証しました。



■ 将来幹線道路網計画(検討案)

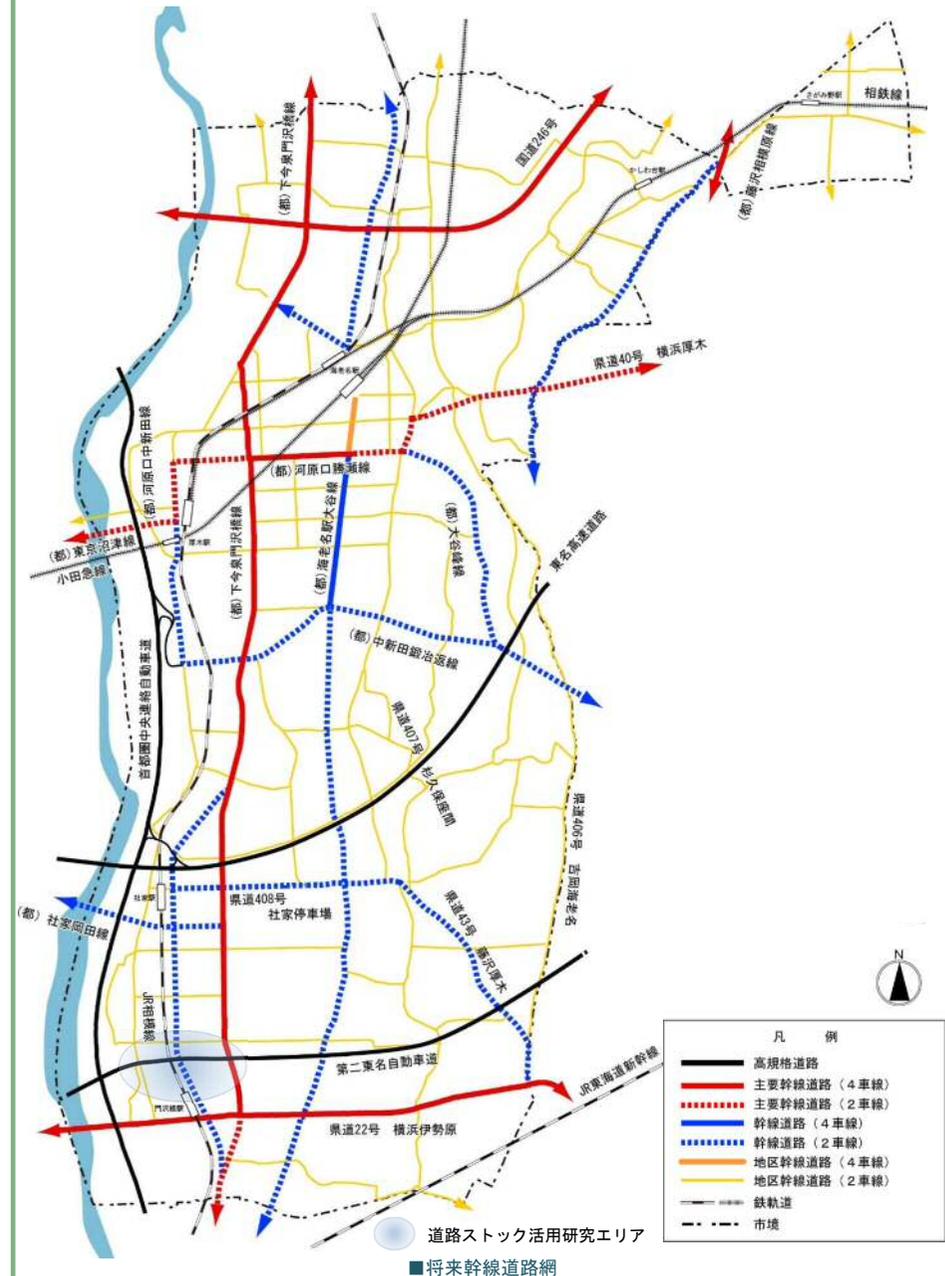
■ 交通量推計ネットワーク

- その結果、(都)河原口中新田線は見直し内容の「線形変更(現道あわせ: 2車)」で対応可能と評価されました。

5. 将来幹線道路網

幹線道路ネットワーク

- 見直し検証を行った結果、将来幹線道路網は、下図の路線で構成します。



※本概要版は、本編の要約・抜粋となります。詳細については「海老名市道路交通マスタープラン」本編をご覧ください。